

## 第39回安中市行政改革審議会会議録（公開用）

（以下、敬称略）

- 【日 時】 令和6年6月7日（金）午後2時30分～午後4時25分  
【場 所】 本庁舎201会議室  
【出席委員】 10名（小竹、谷口、木暮、松田、萩原、富岡、武井、小板橋、  
関根、田島）  
【欠席部会員】 1名（小坂）  
【事務局】 5名（企画政策部長、政策・デジタル推進課長、政策・デジタル推進係  
長、担当係員）

### 【配付資料】

会議次第

委員名簿

諮問書

安中市遊休施設利活用基本方針

資料1 第3次安中市行政改革大綱

資料2 第4次行政改革大綱策定スケジュール案

資料3 第3次安中市行政改革大綱実施計画の実施状況

資料4 令和6年度行政改革に関する職員アンケート集計結果

資料5 令和6年度行政評価実施の方向性について

### 【詳 細】

1 開会 《政策・デジタル推進課長》

2 自己紹介

3 市長挨拶

市長	今回、行政改革審議会には、第4次行政改革大綱について新たに諮問させていただく。当市を取り巻く状況が変化する中で、「豊かで魅力ある元気な、光り輝くあんなか」を目指すためには、市民の声や時代に即した行政改革に取り組み、行財政の余力を取り戻すことが必要となる。行政改革の方針を新たに定め、持続可能な市政運営を実現していきたいと考えている。
----	--

4 諮問（第4次行政改革大綱の策定について）

◆市長が諮問書を読み上げ、会長へ諮問書を渡す。

5 報告事項（遊休施設利活用基本方針について）

I 遊休施設利活用基本方針の目的と位置づけ

II 遊休施設の考え方

III 遊休施設の利活用基本方針

IV 遊休施設の利活用に係る基本的な流れ

<説明> 資産活用課

◆諮問の際は「未利用施設」としていたが、「遊休施設」にタイトルの表現を変更。

諮問から答申までの間に安中市総合計画が変わったため、表現は総合計画に沿うものとなっている。

◆安中市市有財産利活用の基本方針に基づいている。

◆答申に基づいた基本方針になっている。

◆基本方針の変更点について

➢ 方針Ⅱの変更について

利活用できない遊休施設については解体撤去もしくは売却の選択肢を新たに追加した。

➢ 方針Ⅲについて

庁内で基本方針を作成し、まずは市行政内部のニーズをしっかりと把握したいと考える。施設の規模の大きさでフローが変わってくるため、施設の大小で場合分けをしてある。

➢ 遊休施設の利活用に係る基本的な流れについて

施設の大きさにより場合分けをしており、基本的な流れについては答申の内容とほぼ変わりはない。

規模の小さい施設に関しては一部、割愛してある。

## 6 協議事項

(1) 諮問事項について(第4次行政改革大綱の策定について) [資料1に沿って説明]

<説明> 事務局

◆第3次安中市行政改革大綱の概要について

◆第4次行政改革大綱の方向性について

◆第4次行政改革大綱の策定における部会設置の検討について

<審議> ◇=委員 ●=事務局 以下同じ

◇まずは部会設置をどうするか意見をいただきたい。

事務局の意見としても部会は設置する方がいいのではとの判断のようだ。

前回、担当した感想として委員全員でやるより少人数に絞って行ったのが良かったと思う。

何か質問はあるか。

◇部会とはどういったものなのか。

●前回の部会のメンバーは行政改革審議会委員の中から選出した。

<p>当時は行政改革審議会委員が全員で15名いたが、今回は11名と人数が少なくなっている。今回、部会設置の場合は前回より若干人数を絞るほうが良いかもしれない。</p>
<p>◇部会のテーマとは。</p>
<p>●第4次行政改革大綱について原案を協議し、部会の案を行政改革審議会本体で承認後に答申し、市で大綱を策定する流れになる。部会では原案を練る場になるので、テーマは第4次行政改革大綱そのものとなる。たたき台は事務局が作成するが、部会で色々な案や意見をもらい修正を重ね作り上げるイメージである。</p> <p>部会でたたいてもらったものを行政改革審議会本体でまた検討していただく。</p>
<p>◇例えば行政改革審議会では協議事項ごとにテーマがあるが、その中のどの部分を部会で協議することになるのか。</p>
<p>●部会は行政改革審議会の協議事項ごとに結成するわけではなく、常設されてない。その時々で必要な部会が設置されていた。</p> <p>今、部会設置を検討しているテーマは第4次行政改革大綱である。</p> <p>部会では諸々協議いただくこととなる。</p>
<p>◇前回は大まかなものを事務局側が作成し、協議の中で強化しバランスをとっていた。</p>
<p>◇部会設置はどうか。経験上の意見だが、コンパクトに進めるのはどうか。部会設置の反対意見もあるか。</p>
<p>◇部会を少人数でやるのに賛成だが、提案として協議内容によって部会メンバーの構成を変えるのはどうだろうか。</p> <p>得意分野によりメンバーの異動があってもいいのでは。</p>
<p>◇ほかに意見があるか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>部会を設置するということによろしいか。</p> <p>(異議等なし)</p> <p>では、部会を設置するということを進める。</p> <p>行政改革とはどこかで終わりとはならない。常に色々なことに目配りをしながら改革をして行かなければならないと思う。</p> <p>部会のメンバーについて、規模感はさっき少し事務局より話があった。前回より行政改革審議会委員の人数が減っているので、割合の観点から人数を減らしてはどうかと。また、今意見があったように、分野ごとに明るい方明るくない方いると思うが、その辺も踏まえて、事務局で案はあるか。</p>
<p>●部会の人数は行政改革審議会委員の人数が少なくなったため、部会長を含めて4名程度が良いのではと考えている。</p> <p>部会委員の案としては、これまでの部会の構成や経験者などを考慮して、部会長に1号谷口委員、部会員として1号松田委員、2号萩原委員、3号田島委員を推薦したいがどうだろうか。</p>

<p>◇メンバーの人数は4名ということで、どうだろうか。皆さん、よろしいか。  (異議等なし。)</p> <p>今、案として出されたのが、部会長に1号谷口委員、部会員として1号松田委員、2号萩原委員、3号田島委員ということだ。意見はあるか。  (意見等なし。)</p> <p>中身について明るい明るくないというのはあるだろうが、その点は事務局のフォローがあるから、大丈夫だ。むしろ、社会から見ると、行政はこういうところを直したほうがいいのか。いいという目線が大事である。一般的な目線も含めて外部からの目線が必要である。いかがか。</p>
<p>◇事務局からのフォローを受けつつ、市民目線・主婦目線の意見を出していけたらと思う。</p>
<p>●行政内部で計画を作るとなると行政側の考えでしか計画がまとまらないこともある。いろいろな計画を作る際は市民の方や専門的な分野の方の率直な意見をもらいたい。行政ではない目線で提案や意見を部会でもらえたらと思う。</p>
<p>◇異議がなければ拍手でお願いしたい。⇒一同拍手</p> <p>それでは部会長を谷口委員、部会員に松田委員、萩原委員、田島委員の4名を選出するとする。よろしくをお願いしたい。</p>

(2) 令和5年度第3次行政改革大綱実施計画の進捗状況について [資料3に沿って説明]  
<説明>事務局

- ◆第3次安中市行政改革大綱の実施計画の実施状況についての報告。[P 1 参照]
  - ・第3次安中市行政改革大綱および同実施計画は行政改革、行政改革審議会から答申後、令和2年3月に策定。
  
- ◆令和5年度行政改革大綱実施計画の取組状況における
  - 所管課回答集計結果について [P 2 参照]
- ◆行政改革推進項目別の所管課報告結果について [P 3 参照]
- ◆所管課からの取組、目標、計画の具体的な内容について [P 4～参照]
  - 実施状況の数値が空欄となっているものは、目標の数値を設定していない項目であるため。
  - 実施状況の数値が「集計中」や「見込みの率」となっているものは、数値が確定するまで時間を要するため、現時点はこのような表記になっている。
  - 今後の取組として令和5年度の取組結果を踏まえ、令和6年度以降の工程等を必要に応じて修正する。
  - 計画に着手せず、年度目標を達成できなかった事業が増加し、達成した事業数には変化が見られなかったため、計画の実施や事業の達成に向けて取組を推進する。

◇何か意見、質問等あるか。
◇数値的には年度目標に達成していないもので「一部達成」とあるがどういうことなのか。年度目標との整合性はとれているのか。
●年度目標で複数の項目をあげているものもあり、全ての項目ではないが一部の項目を達成しているのでそのような自己評価とすることもありえる。
◇例えば年度目標に対し数値的には達成していなくても何割程度なら「一部達成」となるかの基準値はあるのか。
●あくまで自己評価なので数字の割合を決めているわけではないが、担当課は充分取り組んでいるものの結果として数値的には達成できなかった場合は、担当課として「一部達成」とすることは十分あり得るか考える。
◇確かに、基準値に届かなかったから「達成せず」となるのは残念である。基準値はないことは理解した。
◇「全体の目標達成」が0というのは行政改革大綱を出してそれぞれが所管課でやっていくが、結果全体としては成果が出なかったことになるのではないか。
●5年後までの目標を掲げ、それに向けて年度目標を設定してあるため5年後の目標が達成すれば、「全体の目標達成」の項目となる。
◇令和6年度までの計画のため、令和6年度が終わったときに数値として表すということか。
●そうである。
◇ほかに何か意見はあるか。
年度目標に対して数値目標、達成数値がないのは民間企業では考えられない。
◇ゆくゆくはそういったことも考える必要はある。行政的には市民から受け答えした「声」の詳細を細かに取りまとめることが難しいのは理解しているが、本来なら次のステップまで示してほしい。 アウトプットではなくアウトカムが大事。エビデンスとアウトカムを意識して担当課にフィードバックしていただきたい。 ほかに何か意見はあるか。
◇職員の資質向上と人事制度の項目の評価が全体的に悪く感じた。 特に職員研修では、具体的にどのようなことを行っているのか。
●研修体系については、階層別研修と専門研修と大きく二つに分かれている。評価においては担当課の自己評価になっており、自らに厳しい評価を下している課もあれば、そうでない課もあると思う。現在、研修自体は大きく見直しを図ろうとしている。昨年度は庁内の担当職員が非常に手薄で、なかなか手が回らなかった事情があったが、今年度より職員研修に携わる職員も増強し体制が改善されているので、今後期待したい分野

<p>になっている。</p>
<p>◇人材育成のためにも自治体間、職員同士の切磋琢磨する交流の場が設けられるといいと思う。</p>
<p>●研修の中には富岡市との合同研修や富岡市、藤岡市と3市合同で研修しているものもある。職員の交流を図るとともに他自治体の良い部分を吸収できたらと思い、今後も続けていきたいと考える。</p>
<p>◇ほかに何か意見はあるか。</p>
<p>◇「年度目標達成」が毎年13項目となっているが、毎回同じ項目だけが達成されているのか。</p>
<p>●毎回同じ事業だけが達成しているわけではなく、毎年事業ごとに変化している状況である。</p>
<p>◇この表記だと市民が見てもわかりづらい。例えば表に矢印を用いて記したり、「一部達成」から「目標達成」に変化した項目数の説明を加えたりすることなどで、変化のアピールができるのではないだろうか。</p> <p>ほかに何か意見はあるか。</p>
<p>◇初歩的な質問になるが、行政改革推進項目である36項目が挙げられた経緯が知りたい。</p> <p>また項目に対しての達成数値等の精査をする全体的な流れも簡単に知りたい。</p>
<p>●第3次行政改革大綱の項目に合致する内容を庁内からピックアップし、それぞれの担当課が設定している。</p> <p>評価については専門的な外部評価ではなく、担当課での自己評価となっている。</p>
<p>◇行政改革審議会で目標数値を設定してはどうか。</p>
<p>●行政改革大綱を実現するための実施計画という別の計画を事務方で策定している。総合計画については、審議会等でも協議をいただき策定しているが、その下に、内部で毎年ローリングする3年間の計画として実施計画を策定している。同様に、行政改革大綱では5年間の実施計画を策定しており、その実施計画はローリングしたものを最初に設定し修正があれば修正を加え、なければそのまま引き継ぐというような形である。</p> <p>数値目標が設定できるものと設定できないものとあるため、なるべく数値目標が設定できるような項目に絞っていくのも一つの案かと思う。第4次行政改革大綱の策定に向けて実施計画のあり方も一緒にご協議いただければありがたいと考える。</p>
<p>◇実施計画のあり方も指導、検討すべきだと思う。各担当課の年度目標が毎年同じで変化があまりない。</p> <p>長期を見据えた行政改革大綱においては、外部から年度目標を決めて担当課に渡すのがよいのでは。</p>
<p>◇また部会でご意見を出していただきたいと思う。</p>

(3) 令和6年度「行政改革に関する職員アンケート」集計結果について

[資料4に沿って説明]

<説明>事務局

◆資料の訂正部分について

・「資料4」P1, P3アンケートの対象人数を訂正。

◆第3次安中市行政改革大綱及び同実施計画の認知度や実践状況におけるアンケート概要について [P1参照]

◆アンケートの様式について [P2参照]

◆アンケートの集計結果について [P3～P10参照]

◇なぜ職員が行政改革大綱を知らないのか。労力をかけて策定する意味がないのではないか。
◇どういう理由があるのか、お聞かせ願いたい。
●こちらとしてもすべての職員に把握してほしいと考えており、周知には力を入れているが、結果が伴っていないところがある。
◇行政改革大綱があまり周知されていない中でどうやって達成度等の評価ができるのか。
●「あまり知らない」と答えた職員の中には、自分の担当以外のことはあまりよくわからないから、「知っている」とは答えにくいという人も含まれていると考える。我々、事務局の立場としては全体を把握しているつもりだが、やはり他部署に関しては自己業務に関すること以外には目を向けきれていない職員が多いとは感じている。 また、行政改革大綱を「知っている」と断言するかどうか、自己評価のレベルにより違ってきてしまう部分はある。
◇後々、もう少しブレイクダウンした資料があれば部会でお示し願いたい。 個人的にもグループウェアでやっているのに正規職員の回収結果が100%いかないのはどうなのかと思う。
●職務でグループウェアを見ずとも仕事ができってしまう職員は見ない傾向にある。アンケート期間に後回しで回答しなかった職員もいると思う。
◇そこのところは改善を検討していただきたい。

(4) 令和6年度行政評価の実施について [資料5に沿って説明]

<説明>事務局

◆令和6年度行政評価実施の方向性についての報告。

- 令和5年度については、昨年7月7日開催の行政改革審議会での説明のように、例年どおりの行政評価は行わず、過去に行った行政評価の見直しの審査を行うとともに、市の係長以上の職員に行政評価に関するアンケートを行うなど、今後に向けてあり方の検討を実施した。
- 令和7年度から新たな枠組みで行政評価を実施することを念頭に、令和6年度は新た

な方法で試験的に実施する。

- 令和6年度は、移行に伴う臨時的な措置とし、「スクラップ（最適化、統合、廃止）」の視点から発生したものに特化した行政評価を行う。
- 上記を踏まえ、外部の知見も借りながら、令和7年度以降の行政評価の方法を決定する。

◆行政評価実施のスケジュールについて

- 令和6年度は、4月～6月に対象事業選定、6月～7月に所管課より評価シートを提出する一次評価を実施、7月～9月に政策・デジタル推進課と財政課が会議と所管課へのヒアリングを行いながら評価シートを作成する二次評価を実施する。
- その後、最終評価を行政改革推進会議で受けるか、行政改革審議会委員による外部評価で受けるかを事業ごとに決定し、9月～10月に最終評価する流れ。
- 二次評価の実施方法を変更する理由として、アンケート結果を踏まえ、新たな総合計画のスタートを機にこれまでの評価方法を見直し、総合計画 実施計画の進捗管理と一部統合することで効果的かつ効率的な運用を図るため。
- 外部評価の方法を変更する理由としては、令和4年度までは外部評価後に、庁内組織である行政改革推進会議で最終評価だったが、第三者意見の重要性を鑑み、外部評価となった事業については、それをもって最終評価に変更する。  
なお、最終評価を受けての意思決定は市長となる。

◇何か意見、質問等あるか。
◇推進会議委員は内部メンバーなのか。
●副市長をトップとし、全部長、関係課長の20名弱で構成されている。
◇対象事業選定は4月から6月になっているが、選定はできているのか。
●初めに庁内から広くピックアップした。その中から、行政評価にかけていくべき事業を選定している段階である。
◇6年度は新たな視点でスクラップに特化して行政評価をすることのだが、今までの対象事業の選定については経験から言わせてもらうと、市の大きな「行政評価」と掲げるだけのスクラップが行われておらず、小さなことにとらわれすぎていたと感じた。今年度は政策・デジタル推進課、財政課がヒアリングした上で、最終評価することと期待している。
◇例えば議員定数削減はできるのか。
●その内容については議会の専権事項になってくると思われるので行政評価で扱うのは難しいと考える。
◇ほかに何か意見、質問等あるか。 (意見等なし) また追加で意見等あればメール等でお願ひする。

7 その他

特になし。

## 8 閉会